

平成27年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔医学部（保健学科） 看護学専攻〕

プログラムの名称（和文）	看護学プログラム
（英文）	Program of Nursing
1. 取得できる学位 学士（看護学）	
2. 概要 本プログラムは、幅広く深い教養を基盤に、豊かな人間性と高い倫理観を養い、専門職となるための基礎的知識と技能及び態度を修得し、課題発見・解決力と協働力を備えた、社会の人々に信頼される看護実践者を育てることを目指している。さらに科学的思考力と創造力に富む、将来の看護学の発展に寄与できる看護学研究者を育成することを目指す。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） ○本プログラムは、次の到達目標の達成を目指す。 1) 看護の基盤となる人間・健康・環境・看護実践理論を理解し、必要な知識を修得する。 2) 援助的関係を形成するために必要な能力を習得する。 3) 看護実践において科学的に判断し、計画的に実施する能力を習得する。 4) 看護実践において生命や人の尊厳を重視し、人権を擁護する倫理的判断能力を習得する。 5) 看護職者として、特定の健康課題に対応する実践能力を習得する。 6) 他職種と連携・協働し、保健医療福祉組織における看護職者としての役割を果たす実践基礎能力を習得する。 7) 看護学の発展に寄与する専門職者として研鑽し続ける基本能力を習得する。	
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 本プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。 第1ステップ：1年次で、「豊かな人間性と幅広い教養，専門科目を支える教養科目」「人間の心身の機能に関する専門基礎科目」「看護実践の基礎となる専門科目」を履修し、複眼的な視野で広範な教養を育むとともに、健康と看護について深く探求するための基礎的知識を習得する。 第2ステップ：2年次に、「疾病の予防，発症，治癒に関する専門基礎および専門科目」「健康と環境に関する専門科目」「看護基礎技術に関する専門科目」「ヘルスケアシステムに関する専門科目」の科目群を中心に学習を進め、看護学に関する専門知識を深める。 第3ステップ：3年次前期に、「個人と家族，地域の健康問題と看護に関する専門科目」を履修し、看護実践者に必要な基礎的能力を育成する。 第4ステップ：3年次後期と4年次前期で、「看護実践上の判断能力を習得するための臨地実習」を履修し、看護実践者に必要な基礎的能力を育成する。また、4年次後期では、「医療安全と看護倫理」「看護教育学概説」「卒業研究」を通して、より包括的に看護学を考究し、問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育成する。 卒業時には、看護実践と看護研究に必要な5つの総合的能力（生命・看護倫理に対する判断力，コミュニケーション	

能力、解析・分析能力、ディスカッション能力、チームの一員として協働する能力と態度)を備え、広く社会に貢献できる人材を育成する。

5. 開始時期・受入条件

1年次より開始。

6. 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格

副専攻科目（保健師コース）を選択した場合、保健師国家試験受験資格

副専攻科目（助産学コース）を選択した場合、助産師国家試験受験資格

副専攻科目（養護教諭コース）を選択した場合、養護教諭一種免許状

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

位置付け：看護に関して追求しようとする課題を明確にし、仮説もしくは独自の構想をデータや資料によって実証または記述する過程を踏むことを通して、科学的探求の基本的なプロセスを理解し、論文作成の基本的技術を習得する。

配属方法：学生が、自ら目指す研究テーマを考え、自ら指導教員を選ぶ。

指導教員には、看護学専攻教員があたる。なお、他専攻（作業療法学、理学療法学）教員を指導教員として選択することも可能である。

時期等：4年次

10. 責任体制

P D C A 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

看護学専攻会議、保健学科会議、医学部教授会においてその構成員により実施している。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科看護学専攻

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)														
							1年次		2年次		3年次		4年次								
							前	後	前	後	前	後	前	後							
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○													
		平和科目		2		2	選択必修	○	○												
		パッケージ別科目		6	選択したパッケージから	各2	選択必修	○	○												
	共通科目	外国語科目	英語(注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	必修	○												
						コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○											
				コミュニケーションⅠ	2	コミュニケーションⅠA	1	必修	○												
						コミュニケーションⅠB	1		○												
				コミュニケーションⅡ	2	コミュニケーションⅡA	1	必修		○											
						コミュニケーションⅡB	1			○											
			コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修			○	○										
					コミュニケーションⅢB	1				○	○										
					コミュニケーションⅢC	1				○	○										
			上記3科目のうちから2科目																		
			初修外国語(ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語, アラビア語のうちから1言語選択)	(0)	ベーシック外国語Ⅰから2科目		1	自由選択	○												
					ベーシック外国語Ⅱから2科目		1				○										
	情報科目(注3)	2	情報活用基礎		2	選択必修	○														
			情報活用演習		2				○												
	領域科目	2	脳と行動の科学		2	必修	○														
			心理学A	2	選択必修	○															
		心理学B		2				○													
(0)		すべての領域から		1又は2	自由選択	○	○														
健康スポーツ科目	(0)			1又は2	自由選択	○	○														
基盤科目	2	統計学B		2	選択必修		○														
		数学基礎概論		2		○															
	2	細胞科学		2	必修	○															
	0	初修物理学		2	(注4)	○															
	0	初修生物学		2	(注4)	○															
計	必修・選択必修科目小計		28																		
	自由選択科目小計		12	(注5)																	
	教養教育科目合計		40																		

注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。

注2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(8単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注3: 1年次前期開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得出来なかった場合のみ、後期開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注4: 「初修物理学」、「初修生物学」の単位を修得すべき者は、保健学科において指定する。ただし、卒業要件単位には含まない。

注5: 自由選択科目は、初修外国語、領域科目、健康スポーツ科目の中から合計12単位以上を修得すること。なお、領域科目では、人文科学領域の「倫理学A」及び「倫理学B」並びに社会科学領域の科目の履修が望ましい。

(注) 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、領域科目の「日本国憲法」2単位、及び健康スポーツ科目の「健康スポーツ科学」、「スポーツ実習A」又は「スポーツ実習B」のうちから2単位を履修すること。

専門教育科目履修基準表

医学部保健学科看護学専攻

区分	科目区分	授業科目	単位数	履修指定	履修年次										
					1年次		2年次		3年次		4年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
専門基礎科目		人間発達学	2	必修	②										
		人体構造学Ⅰ	1	必修		①									
		人体構造学Ⅱ	1	必修			①								
		生理機能学Ⅰ	1	必修		①									
		生理機能学Ⅱ	1	必修			①								
		微生物学・免疫学	2	必修			②								
		基礎医学演習	2	必修				②							
		栄養学	2	必修			②								
		病理学	2	必修			②								
		臨床薬理学	2	必修			②								
		臨床生化学	2	選択			2								
		臨床病態学	2	選択			2								
		保健英語	1	選択			1								
	専門教育科目		成人健康障害看護	2	必修			②							
			老年健康障害看護	2	必修				②						
		小児健康障害看護	2	必修				②							
		周産期健康障害看護	2	必修				②							
		精神健康障害看護	2	必修					②						
		健康管理論	2	必修			②								
		疫学	2	必修					②						
		社会福祉学	2	必修					②						
		看護実践学原論	2	必修	②										
		看護技術学・基礎演習	2	必修			②								
		看護技術学・応用演習	2	必修				②							
		看護診断方法論演習	1	必修				①							
		看護管理学概論	2	必修								②			
		医療安全と看護倫理	1	必修				①							
		国際健康看護論	1	必修									①		
		基礎看護実習Ⅰ	1	必修	①										
		基礎看護実習Ⅱ	1	必修			①								
		基礎看護実習Ⅲ	2	必修				②							
		総合実習	2	必修								②			
		看護教育学概説	1	選択									1		
		がん看護学	1	選択							1				
		家族看護学	1	選択							1				
		カウンセリング演習	1	選択						1					
		成人看護学概論	2	必修			②								
		成人看護方法演習・慢性期	1	必修					①						
		成人看護方法演習・急性期	2	必修					②						
		老年看護学概論	2	必修			②								
		老年看護方法演習	1	必修					①						
		小児看護学概論	2	必修			②								
		小児看護方法演習	1	必修					①						
		母性看護学概論	2	必修			②								
		母性看護方法演習	1	必修					①						
		精神看護学概論	2	必修					②						
		精神看護方法演習	1	必修					①						
		地域看護学概論	2	必修					②						
		地域看護学Ⅰ	2	必修					②						
		地域看護学Ⅱ	2	必修						②					
		地域看護学演習	1	必修								①			
		地域看護実習	2	必修								②			
		成人看護学実習(急性期)	2	必修							②				
	成人看護学実習(慢性期)	2	必修								②				
	成人看護学実習(回復期・緩和ケア)	2	必修							②					
	老年看護学実習	2	必修							②					
	小児看護学実習	3	必修							③					
	母性看護学実習	2	必修							②					
	精神看護学実習	2	必修							②					
	卒業研究	4	必修									④			
	保健情報学演習	1	選択						1						
	保健政策論	2	選択							2					
	環境生態学演習	1	選択				1								
	公衆衛生看護学Ⅰ	2	選択						2						
	公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択						2						

医学部保健学科看護学専攻

区分	科目区分	授業科目	単位数	履修指定	履修年次								
					1年次		2年次		3年次		4年次		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育	専門科目	公衆衛生看護管理	2	選択									2
		公衆衛生看護実習	3	選択								3	
		助産学概論	2	選択						2			
		母子看護論	2	選択					2				
		助産診断学	4	選択						4			
		助産技術学	2	選択								2	
		助産疾病論	2	選択								2	
		助産方法論	2	選択								2	
		地域母子保健	1	選択								1	
		助産管理学	2	選択								2	
		助産学実習	11	選択									11
専門基礎科目 開設単位数 必修：16単位			選択：5単位	要履修単位数 必修：16単位									
専門科目 開設単位数 必修：78単位			選択：45単位	要履修単位数 必修：78単位									
専門教育科目計			94										
卒業要件単位数			134										

注1: 実習科目の履修は、所定の授業科目の単位を取得していない場合、許可されないことがある。

注2: 保健師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、次の選択科目を全て履修しなければならない。保健情報学演習、保健政策論、環境生態学演習、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護実習。

注3: 助産師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、次の選択科目を全て履修しなければならない。助産学概論、助産診断学、母子看護論、助産技術学、助産疾病論、助産方法論、地域母子保健、助産管理学、助産学実習。

注4: 養護教諭の免許状を取得しようとする者は、課程10「養護教諭免許取得に必要な履修科目（保健学科看護学専攻）」を参照のこと。

保健師国家試験受験資格取得に必要な履修科目（保健学科看護学専攻）

区分	科目区分	授業科目	単位数	履修指定	履修年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育	専門科目	保健情報学演習	1	選択					1			
		保健政策論	2	選択						2		
		環境生態学演習	1	選択			1					
		公衆衛生看護学Ⅰ	2	選択					2			
		公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択					2			
		公衆衛生看護管理	2	選択								2
		公衆衛生看護実習	3	選択								3

注 保健学科看護学専攻学生で、保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準（教養教育科目、専門教育科目）の必修科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。

助産師国家試験受験資格取得に必要な履修科目（保健学科看護学専攻）

区分	科目区分	授業科目	単位数	履修指定	履修年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前	後	前	後	前	後	前	後
専門教育	専門科目	助産学概論	2	選択						2		
		母子看護論	2	選択					2			
		助産診断学	4	選択						4		
		助産技術学	2	選択							2	
		助産疾病論	2	選択							2	
		助産方法論	2	選択							2	
		地域母子保健	1	選択							1	
		助産管理学	2	選択							2	
		助産学実習	11	選択								11

注 保健学科看護学専攻学生で、助産師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準（教養教育科目、専門教育科目）の必修科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。

養護教諭一種免許取得に必要な履修科目（保健学科看護学専攻）

科目区分		授業科目	単位数	必要単位数	履修セメスター	開講キャンパス	
教養教育科目	外国語科目(英語)	コミュニケーションⅡA	1	1	2セメ	東広島	
		コミュニケーションⅡB	1	1			
	情報科目	情報活用基礎 (又は情報活用演習)	2	2	1セメ (2セメ)		
	領域科目	日本国憲法	2	2	1又は2セメ		東広島又は東千田(後期)
	健康スポーツ科目		2	2	1又は2セメ		東広島
専門教育科目	教職に関する 専門科目	教職入門	2	2	3・4又は5・6セメ	奇数年は霞, 偶数年は東千田	
		教育の思想と原理	2	2		奇数年は霞, 偶数年は東千田	
		児童・青年期発達論	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞	
		教育と社会・制度	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞	
		教育課程論	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞	
		教育方法・技術論	2	2		奇数年は霞, 偶数年は東千田	
		道徳教育指導法	2	2		奇数年に霞で開講	
		特別活動指導法	2	2		偶数年に東千田で開講	
		生徒・進路指導論	2	2		奇数年は霞, 偶数年は東千田	
		教育相談	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞	
		養護実習	5	5		7・8セメ	広島大学の附属学校で実習
	教職実践演習(注)	2	2	8セメ	霞(医学部)で開講		
	専門基礎科目	臨床薬理学	2	2	3セメ	霞(医学部)で開講	
		微生物学・免疫学	2	2	3セメ	霞(医学部)で開講	
専門科目	公衆衛生看護学Ⅱ	2	2	5セメ	霞(医学部)で開講		
その他の教職科目	学校保健演習	2	2	5・6セメ	霞(医学部)で開講		

- 保健学科看護学専攻学生で、養護教諭一種免許単位を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。
- 「教職に関する科目」については、霞キャンパスでは医学部保健学科生用の昼間集中講義で開講し、東千田キャンパスでは法学部及び経済学部夜間主コース生用の夜間集中講義で開講する。

(注) 教職実践演習(養護教諭)(8セメスター集中授業)を履修するためには、7セメスターに養護実習の履修手続を済ませ、教職実践演習の開始までに養護実習の単位を修得又は修得見込みであること。
7セメスター終了時点で養護実習の単位が修得できておらず、8セメスターで教職実践演習と並行して養護実習を履修することとなった場合、教職実践演習の単位は、養護実習の単位が認定されることを条件として認定する。

看護プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 一般教養に関する知識・理解	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、他の項目と関連付けて説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において、基本的な説明ができる。
	(2) 心身の機能と環境に基づく健康、疾病の予防、発症、治療に関する知識・理解	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、他の項目と関連づけて応用的な説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、他の項目と関連づけて説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、基本的な説明ができる。
	(3) 看護実践理論、看護の基本的技術と態度に関する知識・理解			
	(4) 個人と家族、地域の健康問題と看護に関する知識・理解			
	(5) ヘルスケアシステムと看護職者間ならび他職種との協働に関する知識・理解			
	(6) 看護倫理に関する知識・理解			
(7) 看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験において、他の項目と関連づけて応用的な説明ができる。				
能力・技能	(1) 根拠に基づいた看護実践を計画する能力	①演習において、エビデンスに基づいた看護方法を対象の個別性を考慮して計画に应用できる。 ②演習において、基礎的知識を予習した上で、積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に評価・考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	①演習において、エビデンスに基づいた標準的な看護方法を計画できる。 ②演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に評価・考察することができる。	①演習において、標準的な看護方法を計画することができる。 ②演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則に基づいて展開することができる。 ③レポート作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(2) 対象の健康課題を根拠に基づいて査定する能力			
	(3) 根拠に基づき計画した看護を適切に実践する能力	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を、自立して、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性やニーズを総合的に捉え、個別的な看護過程を展開することができる。 ③利用者に対する看護実践を評価し、評価結果を別の利用者に対して活かすことができる。	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を、看護職者の助言のもとに、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性やニーズを総合的に捉え、標準的な看護を計画のうち一部は個別性を考慮して実施することができる。 ③利用者に対する看護実践を利用者の反応を踏まえて振り返ることができる。	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を、看護職者の補助のもとに、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性とニーズを分析し、ニーズへの標準的な看護を計画することができる。 ③自分の実践を客観的に振り返ることができる。
	(4) 対象の健康課題に応じた健康の保持増進、疾病や事故・傷害の予防、健康の回復にかかわる看護を実践する能力 *利用者：看護実践の場における看護サービスの利用者。患者、相談者、地域住民など包含する。	①利用者に関する看護過程ではエビデンスに基づいた看護方法を、計画に应用できる。 ②基本的な原理原則をふまえた上で、利用者の個別性を考慮して実践できる。また、常に探求的態度で臨み、実践後には客観的評価し、計画の追加修正を行うことができる。 ③看護職者に助言を求め、ディスカッションすることができる。	①利用者に関連したエビデンスに基づいた標準的な看護方法を説明できる。 ②基本的な原理原則をふまえ、利用者の個別性に配慮して実践できる。 ③看護職者に助言を求められることができる。	①利用者に関連した標準的な看護方法を説明できる。 ②基本的な原理原則に基づいて実践できる。 ③看護職者に自分が計画した内容を伝えることができる。
総合的な力	(1) 生命・看護倫理に対する判断力	①問題や課題に気づき、適切な対処行動がとれる。	①問題や課題について、分析を行うことができる。	問題や課題について気づくことができる。課題の分析過程を知り、所在を知る方法を知っている。
	(2) チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度	各職種の役割を理解した上で、利用者のニーズ充足に必要な職種を考え、適切に働きかけることができる。	各職種の役割を理解した上で、適切に働きかけることができる。	チームの一員であることを認識して行動することができる。
	(3) 研究成果の実践への活用力および自己研鑽力	自分の現状を的確に把握し、専門職者として成長するための課題に取り組むことができる。	自ら学ぶ姿勢を有し、向上心をもって行動できる。	問題に気づき、解決するための手段を考え、実践できる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、ものごとの本質と背景を広い視野から洞察することのできる視座の確立、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、既成の枠を超えた学際的・総合的研究を開拓し推進

科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	評価項目																				科目中の評価 項目の総加重 値							
					知識・理解										能力・技能				総合的な力													
					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)												
					一般教養に 関する知識	心身の機能と環 境に基づく健 康、疾病の予 防、発症、治癒 に関する知識・ 理解	看護実践理 論、看護の基 本的技術と態 度に関する知 識・理解	個人と家族、 地域の健康問 題と看護に関 する知識・理解	ヘルスケアシ ステムと看護職 者間ならび他 職種との協働 に関する知識・ 理解	看護倫理に関 する知識・理解	根拠に基づ き、看護を計画 的に実践する 能力の知識と 理解	健康の保持増 進、疾病の予 防、健康の回 復にかかわる 実践能力の知 識と理解	根拠に基づ き、看護を計画 的に実践する 能力の展開	健康の保持増 進、疾病の予 防、健康の回 復にかかわる 実践能力の展 開	生命・看護倫 理に対する判 断力	チームの一員 として協働する 能力と態度	研究能力およ び自己教育力															
専門教育科目	地域看護実習	2	必修	7セメ															50	1	50	1										100
専門教育科目	保健情報学演習	1	選択	5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	健康政策論	2	選択	6セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	環境生態学演習	1	選択	4セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	公衆衛生看護学Ⅰ	2	選択	5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択	5セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	公衆衛生看護管理	2	選択	8セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	公衆衛生看護実習	3	選択	7セメ															50	1	50	1										100
専門教育科目	老年看護学概論	2	必修	3セメ			20	1	20	1	20	1	20	1																		100
専門教育科目	老年看護方法演習	1	必修	5セメ											50	1	50	1														100
専門教育科目	老年看護学実習	2	必修	6セメ															50	1	50	1										100
専門教育科目	総合実習	2	必修	7セメ																				30	1	50	1	20	1		100	
専門教育科目	卒業研究	4	必修	7・8セメ																								100	1		100	

看護プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	心身の機能と環境に基づく健康、疾病の予防、発症、治癒に関する知識・理解	看護実践学原論(◎)	母性看護学概論(◎)	人体構造学Ⅱ(◎)	社会福祉学(◎)	疫学(◎)	地域看護学Ⅱ(◎)	看護管理学概論(◎)	国際健康看護論(◎)
		人間発達学(◎)	人体構造学Ⅰ(◎)	生理機能学Ⅱ(◎)	医療安全と看護倫理(◎)	精神健康障害看護(◎)			
		教養ゼミ(◎)	生理機能学Ⅰ(◎)	病理学(◎)	地域看護学概論(◎)	地域看護学Ⅰ(◎)			
	看護実践理論、看護の基本的技術と態度に関する知識・理解	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)	微生物学・免疫学(◎)	精神看護学概論(◎)				
		コミュニケーション基礎Ⅰ(◎)	コミュニケーション基礎Ⅱ(◎)	臨床薬理学(◎)	老年健康障害看護(◎)				
		コミュニケーションⅠA(◎)	コミュニケーションⅡA(◎)	栄養学(◎)	小児健康障害看護(◎)				
	個人と家族、地域の健康問題と看護に関する知識・理解	コミュニケーションⅠB(◎)	コミュニケーションⅡB(◎)	健康管理論(◎)	周産期健康障害看護(◎)				
		情報活用基礎(○)	情報活用演習(○)	成人健康障害看護(◎)	コミュニケーションⅢA(○)				
		脳と行動の科学(◎)	倫理学B(○)	成人看護学概論(◎)	コミュニケーションⅢB(○)				
	ヘルスケアシステムと看護職者間ならび他職種との協働に関する知識・理解	倫理学A(○)	統計学B(○)	老年看護学概論(◎)	コミュニケーションⅢC(○)				
数学基礎概論(○)		医療従事者のための心理学(◎)	小児看護学概論(◎)						
平和科目(○)		平和科目(○)	コミュニケーションⅢA(○)						
看護倫理に関する知識・理解	自由選択科目	自由選択科目	コミュニケーションⅢB(○)						
			コミュニケーションⅢC(○)						
知的能力・技能	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の知識と理解	基礎看護実習Ⅰ(◎)		看護技術学・基礎演習(◎)	看護技術学・応用演習(◎)	小児看護方法演習(◎)		地域看護学演習(◎)	
				基礎看護実習Ⅱ(◎)	看護診断方法論演習(◎)	精神看護方法演習(◎)			
	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の知識と理解				母性看護方法演習(◎)	老年看護方法演習(◎)			
実践的能力・技能	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の展開				基礎看護実習Ⅲ(◎)		母性看護学実習(◎)	成人看護学実習(慢性期)(◎)	
							小児看護学実習(◎)	地域看護実習(◎)	
	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の展開 *利用者：看護実践の場における看護サービスの利用者。患							精神看護学実習(◎)	
								老年看護学実習(◎)	
								成人看護学実習(急性期)(◎)	
							成人看護学実習(回復期・緩和ケア)(◎)		
総合的な能力・技能	生命・看護倫理に対する判断力							総合実習(◎)	
								卒業研究(◎)	
	チームの一員として協働する能力と態度							卒業研究(◎)	
研究能力および自己教育力								総合実習(◎)	

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 専門科目(公衆衛生・助産) 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

看護プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	心身の機能と環境に基づく健康、疾病の予防、発症、治癒に関する知識・理解	看護実践学原論(◎)	母性看護学概論(◎)	人体構造学Ⅱ(◎)	社会福祉学(◎)	疫学(◎)	地域看護学Ⅱ(◎)	看護管理学概論(◎)	国際健康看護論(◎)
		人間発達学(◎)	人体構造学Ⅰ(◎)	生理機能学Ⅱ(◎)	医療安全と看護倫理(◎)	精神健康障害看護(◎)	保健政策論(△)	助産技術学(△)	公衆衛生看護管理(△)
		教養ゼミ(◎)	生理機能学Ⅰ(◎)	病理学(◎)	地域看護学概論(◎)	地域看護学Ⅰ(◎)	助産診断学(△)	助産疾病論(△)	
	看護実践理論、看護の基本的技術と態度に関する知識・理解	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)	微生物学・免疫学(◎)	精神看護学概論(◎)	公衆衛生看護学Ⅰ(△)		助産方法論(△)	
		コミュニケーション基礎Ⅰ(◎)	コミュニケーション基礎Ⅱ(◎)	臨床薬理学(◎)	老年健康障害看護(◎)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)		地域母子保健(△)	
		コミュニケーションⅠA(◎)	コミュニケーションⅡA(◎)	栄養学(◎)	小児健康障害看護(◎)	助産学概論(△)		助産管理学(△)	
	個人と家族、地域の健康問題と看護に関する知識・理解	コミュニケーションⅠB(◎)	コミュニケーションⅡB(◎)	健康管理論(◎)	周産期健康障害看護(◎)	母子看護論(△)			
		情報活用基礎(○)	情報活用演習(○)	成人健康障害看護(◎)	コミュニケーションⅢA(○)				
	ヘルスケアシステムと看護職者間ならび他職種との協働に関する知識・理解	脳と行動の科学(◎)	倫理学B(○)	成人看護学概論(◎)	コミュニケーションⅢB(○)				
		倫理学A(○)	統計学B(○)	老年看護学概論(◎)	コミュニケーションⅢC(○)				
数学基礎概論(○)		医療従事者のための心理学(◎)	小児看護学概論(◎)						
看護倫理に関する知識・理解	平和科目(○)	平和科目(○)	コミュニケーションⅢA(○)						
	自由選択科目	自由選択科目	コミュニケーションⅢB(○)						
			コミュニケーションⅢC(○)						
知的能力・技能	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の知識と理解	基礎看護実習Ⅰ(◎)		看護技術学・基礎演習(◎)	看護技術学・応用演習(◎)	小児看護方法演習(◎)		地域看護学演習(◎)	
				基礎看護実習Ⅱ(◎)	看護診断方法論演習(◎)	精神看護方法演習(◎)			
	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の知識と理解				母性看護方法演習(◎)	老年看護方法演習(◎)			
実践的能力・技能	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力の展開				基礎医学演習(◎)	成人看護方法演習・慢性期(◎)			
					環境生態学演習(△)	成人看護方法演習・急性期(◎)			
	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力の展開 *利用者：看護実践の場における看護サービスの利用者。患					保健情報学演習(△)			
					基礎看護実習Ⅲ(◎)		母性看護学実習(◎)	成人看護学実習(慢性期)(◎)	助産学実習(△)
総合的な能力・技能	生命・看護倫理に対する判断力					小児看護学実習(◎)	地域看護実習(◎)		
						精神看護学実習(◎)	公衆衛生看護実習(△)		
	チームの一員として協働する能力と態度					老年看護学実習(◎)			
						成人看護学実習(急性期)(◎)			
研究能力および自己教育力					成人看護学実習(回復期・緩和ケア)(◎)				
							総合実習(◎)		
							卒業研究(◎)	卒業研究(◎)	
							総合実習(◎)		
								総合実習(◎)	

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 専門科目(公衆衛生・助産) 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

看護プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
小林 敏生	教授	5345	健康開発科学	tkobaya@hiroshima-u.ac.jp
梯 正之	教授	5350	健康情報学	akehashi@hiroshima-u.ac.jp
宮腰 由紀子	教授	5355	基礎看護開発学	yymiyakoyy@hiroshima-u.ac.jp
大平 光子	教授	5360	助産・母性看護開発学	moohira@hiroshima-u.ac.jp
森山 美知子	教授	5365	成人看護開発学	morimich@hiroshima-u.ac.jp
祖父江 育子	教授	5370	小児看護開発学	sobue@hiroshima-u.ac.jp
國生 拓子	教授	5375	精神保健看護開発学	kokusho@hiroshima-u.ac.jp
片岡 健	教授	5380	成人健康学	katachan@hiroshima-u.ac.jp
中谷 久恵	教授	5390	地域・在宅看護開発学	hinakata@hiroshima-u.ac.jp
川崎 裕美	教授	5395	地域・学校看護開発学	khiromi@hiroshima-u.ac.jp
宮下 美香	教授	5385	老年・がん看護開発学	mikamiya@hiroshima-u.ac.jp
藤井 宝恵	講師	5346	基礎看護開発学	tomie@hiroshima-u.ac.jp
大塚 美樹	講師	5458	地域・在宅看護開発学	oeki@hiroshima-u.ac.jp
藤本 紗央里	講師	5361	助産・母性看護開発学	fsaori@hiroshima-u.ac.jp
小澤 未緒	講師	5432	助産・母性看護開発学	ozawamio@hiroshima-u.ac.jp
二井谷 真由美	講師	5366	成人看護開発学	mniitani@hiroshima-u.ac.jp
竹中 和子	講師	5378	小児看護開発学	takewank@hiroshima-u.ac.jp
船場 友木	助教	5352	助産・母性看護開発学	funaba@hiroshima-u.ac.jp
新宮 美穂	助教	5347	基礎看護開発学	mshinguu@hiroshima-u.ac.jp
村上 真理	助教	5352	健康情報学	muromari@hiroshima-u.ac.jp
福島 紗世	特任助教	5352	助産・母性看護開発学	sfuku@hiroshima-u.ac.jp
渡邊 多恵	助教	5382	成人健康学	watanabetae@hiroshima-u.ac.jp
金藤 亜希子	助教	5397	地域・在宅看護開発学	teccy@hiroshima-u.ac.jp
松本 裕子	助教	5377	精神保健看護開発学	my0923@hiroshima-u.ac.jp
鍵浦 文子	特任助教	5377	老年・がん看護開発学	fumiko5@hiroshima-u.ac.jp
加澤 佳奈	特任助教	5382	成人看護開発学	kkazawa@hiroshima-u.ac.jp
栗栖 京子	特任助教	5347	地域・在宅看護開発学	kukuriku@hiroshima-u.ac.jp
山崎 智子	助教	5397	地域・学校看護開発学	morisato@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））